第41回全日本中学選手権競漕大会

新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

本ガイドラインは、現状を踏まえ関係諸機関のガイドライン等の情報を用いて作成していますが、使用者の責任において活用するガイドラインです。大会主催者として、最大限安全に配慮して運営を行いますが、大会に関わるすべての方の新型コロナウイルスへの感染に対して、いかなる場合においても責任を負いかねますので、予めご了承ください。

1　基本方針

（1）大会参加者(選手・監督)及び大会運営スタッフ並びに大会開催地の住民の生命、健康の安全を最優先とし、大会開催に係る感染リスクに対し必要な対策を講じるものとする。

（2）大会開催にあたっては、3密空間(密閉・密集・密接)を避けるとともに、大会に関わる全ての者が「新しい生活様式(厚生労働省　令和2年5月4日)」に基づく感染症対策を実践する。(資料1)

2　大会開催判断に係る要件

（1）全国的に緊急事態宣言が発出された状況にないこと。

（2）開催自治体(長野県下諏訪町)において、イベントの開催及び施設利用が認められており、下諏訪町が都道府県間の移動制限がないこと。

（3）出漕申請後、緊急事態宣言等による参加辞退があった場合にあっても2/3以上の参加があること。

（4）大会開催に係る医療・救助体制が確立されるとともに、大会運営に必要なスタッフが確保されていること。

（5）本ガイドラインを遵守するために必要な対策経費が確保されていること。

（6）大会開催は、上記(1)～(5)の要件を総合的に評価し、開催1か月前を目途に大会実行委員がその可否を判断する。この決定については、決定した日の1週間後までに大会ホームページ(日本ボート協会HP、長野県ボート協会HP)にて公表するものとする。ただし開催決定後にあっても、全国的な感染拡大が認められた場合には委員長判断により大会中止とする場合もある。

3　大会参加に係る前提条件

（1）大会出場団体にあっては、各都道府県または選手所属校・クラブ等において活動が認められていること。

（2）所在する都道府県において緊急事態宣言が大会当日に発出されている団体は大会出場を見合わせていただく。

（3）「感染または感染が疑われる場合の参加判断基準」別表1(P7)を参照し、参加が認められる状態にあること。

4　本大会の開催

（1）開催自治体の方針に従うことを前提とし、日本ボート協会「新型コロナウイルス感染症対策に伴うボート競技大会開催に係るガイドライン(第1版)」を参照し作成した本ガイドラインを遵守する。

（2）全国の感染状況やスポーツイベントにおけるクラスターの発生状況、開催自治体の要請等により、大会の中止または規模縮小などの適正な対応を行う。

上記に関わらず主催者が感染症対策のため有効であると判断した場合は、参加クルー数・競技種数・レース距離・競技日程の短縮等、大会規模を縮小して開催する。

（3）本大会の開催については、下記の対応を前提として実施する。

①無観客での開催。

②開会式は行わない。7月10日第1レースの前に会場放送による開始式を実施する。

③代表者会議はリモートで行う。(新型コロナウイルス感染状況により変更の可能性あり。)

④表彰式はレース終了後、表彰者を優勝者全員、2・3位2名までとし順次AQUA未来（艇庫）前にておこなう。

⑤大会に関わる全ての者が健康スクリーニング(14日間)を行い、大会に参加する。

5．大会参加者及び大会主催者(運営スタッフ)の遵守事項

（1）共通事項

1）大会開催14日前

①大会関係者は、大会開催14日前から毎日健康スクリーニング(体温・健康状態のチェック)を行うものとする。

②健康スクリーニングは、「健康チェックシート(大会前用)」資料2を用い記録するものとする。出場選手にあっては引率者又はチーム代表者が管理し、公式練習時に競技本部へチェックシートを提出する。

③大会関係者は、厚生労働者の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）を活用し、大会開催14日前から感染者との接触状況などの把握や感染防止に努める。

④「感染または感染が疑われる場合の参加基準」は別表1に揚げるとおりとし、これに該当する場合は、参加は認められない。該当者は会場入りせず、速やかにその旨を主催者に報告すること。

2）大会当日

①大会関係者は期間中、毎朝「健康チェックシート(当日用)」資料3に記録し、競技本部へ提出する。

②当日の体温が平熱より1度以上高いまたは37.5度以上だった場合、その他新型コロナウイルス感染症が疑われる症状があった場合、参加は認められない。該当者及び濃厚接触者は会場入りせず、速やかにその旨を主催者に報告すること。

③毎日、会場到着後、大会参加者(チームスタッフ含む)は競技本部へ「健康チェックシート(当日用)」を提出し、運営スタッフによるチェック後にリストバンドを着用する。

④レース以外ではマスクの着用を義務付けるものとし、着用に関するルールについては本ガイドライン内Ｐ4の「4）マスク着用のルール」に記載する。

⑤大会期間中、大会本部・艇庫・控えテント等を使用する場合は各箇所に設置された消毒液で手指消

毒を行う。

⑥ソーシャルディスタンス(2m)を意識するとともに、屋内では定期的な換気を行う。

⑦飲料やタオル等の物品は、各自で用意し、共有しない。

3）大会終了後

①大会関係者は、大会終了後14日以内に新型コロナウイルスに感染した場合、速やかに主催者にその旨を報告することとする。主催者は感染の報告を受けた場合は、開催自治体の保健所に報告し、その指示に従って対応する。

②大会前～終了までの間、本大会の関係者から感染者が発生した場合、個人を特定しようとすることやSNS 等で誤った情報を発信することがないよう、本人やその関係者の人権を尊重し、個人情報の保護に配慮しなければならないことを強く認識すること。

（2）大会参加者

1）宿泊・食事

①宿泊は、原則、主催者が指定する旅行業者による配宿とし、宿泊及び食事に関して一括してとりまとめるものとする。

②各宿泊施設における感染症対策については、各施設の責任において実施するものとし、主催者は、旅行業者を通じて各施設に安全対策の徹底を依頼する。

③宿泊施設は、ホテルタイプの部屋を優先して確保するよう努めるものとし、複数名で1室を利用する場合（大部屋）は、個人間の距離を1m 以上確保する。

④1m以上の距離が確保できない場合は、各施設の責任により、宿泊施設の実情に合わせた対策を行う。

⑤食事の際は、極力対面を避け、大声での会話は慎むこととし、チームミーティング等は、別途時間を設けて行う

2）移動

①会場までの移動は、原則、各団体の責任で行う。

②公共交通機関を使用する場合は、マスクを着用し、対面、大声での会話を避けるなど、一般的な感染症対策を意識して行動する。

3）大会会場での行動・時間ルール

①健康チェックシート提出受付は、受付場所や選手控え所の混雑（密集）を避けるため、原則、発艇時刻の2 時間30 分前からとする（例／午前10 時発艇レース出場の場合、午前7 時30 分から）。

②①に定めた受付時刻よりも早く会場入りする場合は、テント内での密集または他チームとの接触を避けること。

③ウォーミングアップは、2 時間前から行うことができるものとする。なお、会場付近の道路は周辺住民の生活道路であることから、交通規制以外の道路は車両に十分注意するとともに、車道にはみ出すなどの危険行為は行わないこと。

④レース後は速やかにクールダウン等を行い、レース終了後は、賞状等を受け取るクルーを除き、可能な限り早めに会場を後にすること。なお、複数種目の出場団体にあっては、来場した車両内で待機するなどし、時間調整を行うこと。

⑤各チームで大会会場内まで帯同が可能な者は、各チームの監督・コーチとする。

4）マスク着用のルール

①マスクは、大会参加者が各自の責任で用意するものとし、マスク着用方法については下記のとおりとする。

②大会期間中、マスクが不足しないよう十分な数量を用意すること。

③熱中症予防のため、屋外で2m 以上の間隔が確保できる場合は、適宜マスクを外し、休憩を取り、水分補給を行うこと。

④マスク不要とした場面にあっては、対面、大声での会話を極力避けること。

マスク着用	1　屋内での活動時全般（トレーニング時を除く） 2　桟橋、配艇場（出艇・帰艇の補助、リギング等） 3　チームミーティングなどの会話時 4　移動時
マスク不要	1　屋外での活動時で、２m以上の間隔が確保できる場合。 2　アップ、クールダウン時 3　トレーニング時 4　乗艇時（レース時）※ただし、舵手はマスク着用する。 5　水分補給時、食事中

5）　競技（水上・陸上共通）

（競技前～競技中）

①ウォーミングアップは、クルーごとに行う（最大5 人まで）。

②リギングはマスクを着用すること。

③桟橋に到着後、選手はマスクを外して、密閉したビニール袋などに入れて、各自マスクを保管する。

④出艇補助を行う、選手以外のチームスタッフは、常にマスクを着用する。

⑤選手には、ウォーミングアップを含む競技（運動）中にマスク着用を求めない。

⑥舵手は水上においてもマスクを着用することとし、コックスボックスの使用を推奨するものとする。

⑦大会参加者は、常に自分のマスクを携帯し、未着用時は各自保管する（水上活動時、チームスタッフがマスクを保管することは可とするが、その場合は手で接触しないように保管すること。

⑧運動中や作業中に路上や水上へ唾や痰を吐くことは、行わないようにする。

（競技後）

①桟橋に到着後、選手はマスクを着用する（選手の体調を考慮し、マスクを外したまま艇の運搬、掃除を行っても差し支えない）。

②帰艇補助を行う、選手以外のチームスタッフは、常にマスクを着用する。

③帰艇後、オール等の高度接触箇所は、エタノール等で清拭消毒することを推奨する。

④競技後は、チームスタッフも含め、洗顔や手指消毒を行う。

⑤クールダウンはクルーごとに行う（最大5 人まで）。

⑥選手には、クールダウンを含む競技（運動）中にマスク着用を求めない。

⑦クールダウンで使用したローイングマシン等の器具は、使用後に消毒液を使用し、各クルーで消毒を行うこと。その際、清拭消毒用ウエスは各団体で持参するとともに、使用後は、各団体の責任で持ち帰ること。

⑧運動中や作業中に路上や水上へ唾や痰を吐くことは、行わないようにする。

6）その他

①会場内にごみ箱、喫煙所は設置しない。ごみは、各団体の責任で持ち帰ることとし、体液の付着したごみは、ビニール袋等で密閉し処分すること。

②共有スペースの使用前後には、手指消毒を行う。また、スペースに限りがあることから、滞在時間は短時間にとどめ、極力、私語を行わないようにする。

③すべての場所でソーシャルディスタンスを常に意識し、集団での声を出しての応援は行わないようにする。また、マスク未着用時のあいさつは会釈等にとどめること。

④伴走は、徒歩・自転車とも禁止し、水上出場選手及び陸上活動選手に向けての大声での声援は行わない。

（3）大会主催者・運営スタッフ

1）対策本部の設置

①緊急時の意思決定（大会中止、日程変更等）を行うため、対策本部を設置する。

②対策本部は、大会運営委員会が選出した者により組織する。

2）感染症対策体制と緊急対応マニュアル

①医師を構成に加えた「メディカルチーム」、大会関係者の体調把握等を行う「管理チーム」、会場の消毒作業等を行う「予防チーム」をそれぞれ編成し、大会期間中の感染症対策を行う。

②医務室を配置し、医師・看護師のいずれかを常駐させる。

③事前に大会期間中の緊急対応（初期対応、待機場所・搬送の手順等）、関係機関との連絡体制を定める。

④医師、看護師との契約は協定書のとおりとする。

3）会場内のゾーンニング（ソーシャルディスタンスの確保・結果掲示）

①狭小な会場周辺環境のため、できうる限り最小限のスタッフで運営を行うとともに、会場周辺の動線を整理し、屋内外でのソーシャルディスタンスの確保に努める。
②赤砂崎公園に選手控えテントを設置し、待機場所の分散に努める。
③大会期間中、発熱等の体調不良により新型コロナウイルス感染症が疑われる事例が発生した場合の隔離エリアを設置する。
④大会会場内でのレース結果の掲示は行わず、順次、インターネット上で結果報告を行う。

4）定期的な換気・会場内の巡回
①主催者は、艇庫等の屋内施設内では定期的な換気を行う。
②主催者は、大会会場周辺で、適正な感染症対策（換気、高頻度接触箇所の消毒、3 密回避）が実践されているかを確認するため定期的な巡回を行うとともに、状況に応じて、大会参加者への声掛けや引率者を通じた指導を行う。

5）メディア対応の制限
①主催者は、メディア関係者に対し、取材の事前連絡（申込）を受けるよう周知する。
②メディア関係者についても、他の参加者と同様、健康スクリーニング（14 日前から）が実施するよう周知する。
③表彰式はレース終了後順次行うものとし、入賞者の撮影は、メディア関係者同士の接触を制限するため、その方法に配慮し原則としてプレスペースのみで取材を行うこととする。

6）競技役員
①審判艇、ゴール判定塔、監視、配艇、ボートホルダー、記録集計用PC 等、各部署で使用した設備・無線等の物品は、1 日の業務終了後、完全に清掃、消毒を実施する。
②上記について、各部署の責任者の指示により遺漏なく実施する。

7）　本ガイドライン周知等
①主催者は、本ガイドラインについて大会関係者に文書で通知するとともに、必要に応じ長野県ボート協会ホームページへの掲載、メール等により事前周知する。
②大会会場施設に新型コロナウイルス感染症予防対策の基本となる「新しい生活様式」等を掲示し、大会関係者への周知・徹底を行う。

「新しい生活様式」の実践例

資料１

（１）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

□人との間隔は、できるだけ２ｍ（最低１ｍ）空ける。
□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
□外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
□家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
□手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。

※　高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

□感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
□発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
□地域の感染状況に注意する。

（２）日常生活を営む上での基本的生活様式

□まめに手洗い・手指消毒　□咳エチケットの徹底
□こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に）　□身体的距離の確保
□「３密」の回避（密集、密接、密閉）
□一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
□ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

密集回避　密接回避　密閉回避　換気　咳エチケット　手洗い

（３）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

□通販も利用
□１人または少人数ですいた時間に
□電子決済の利用
□計画をたてて素早く済ます
□サンプルなど展示品への接触は控えめに
□レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

□公園はすいた時間、場所を選ぶ
□筋トレやヨガは、十分に人との間隔を
　もしくは自宅で動画を活用
□ジョギングは少人数で
□すれ違うときは距離をとるマナー
□予約制を利用してゆったりと
□狭い部屋での長居は無用
□歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

□会話は控えめに
□混んでいる時間帯は避けて
□徒歩や自転車利用も併用する

食事

□持ち帰りや出前、デリバリーも
□屋外空間で気持ちよく
□大皿は避けて、料理は個々に
□対面ではなく横並びで座ろう
□料理に集中、おしゃべりは控えめに
□お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

□接触確認アプリの活用を
□発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

（４）働き方の新しいスタイル

□テレワークやローテーション勤務　□時差通勤でゆったりと　□ オフィスはひろびろと
□会議はオンライン　□対面での打合せは換気とマスク

【別表１】

○参加判断基準

参加者	対応	参加可能・不可能
チーム内に会場入り前１４日間で発熱(37.5度以上）などの体調不良があった場合	新型コロナウィルス感染症の感染リスクが低いことを示すため、該当する者について「PCR検査結果」の提出義務付け。(陰性の場合のみ出場可能。）監督者は大会主催者に報告すること。	条件付きで参加可能
濃厚接触が疑われる者、同居家族や身近な人が濃厚接触者であった者 EX：濃厚接触者の家族	上記と同じ理由により「PCR検査結果」の提出を義務付ける。(陰性の場合のみ出場可能。	条件付きで参加可能
検査対象者 （※１）	検査結果判明前の場合、参加不可。検査結果が陰性で健康状態に問題がない場合参加可能。	条件付きで参加可能
会場入り前14日間で濃厚接触者となった者	保健所の指示に従うこと。	参加不可
感染が判明した者	保健所の指示に従うこと。	参加不可

※１　新型コロナウィルス感染症にかかっていると疑うに足る正当な理由があり、保健所または医師からPCR検査・抗原検査の対象とされた場合をさす。

健康チェックシート（大会前用）

資料２

１　氏名（フリガナ）　　（　　）

２　所属（学校名等）

３　参加種別　　出場校　選手・監督・補助員　／　大会役員　／　大会補助員　／　報道関係者

【チェック項目】

ア．平熱を超える発熱　　イ．咳、喉の痛みなど風邪症状　　ウ．だるさ、息苦しさ（呼吸器症状）

エ．味覚や嗅覚の異常　　オ．体が重く感じる、疲れやすい

カ．新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触　　キ．同居家族や身近な知人で感染が疑われる人

ク．過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触

◎大会前の健康チェック

大会まで	日付			体温		上記ア～クに該当しない場合「レ」を記入								備考	
	月	日	曜	朝	夕	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	特記すべき行動履歴	その他（体調・学校内の状況など）
(例)	6	9	水	36.3	36.5	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	県外(場所)への外出あり（移動手段、同行者など記載）	自主的な検査実施(陰性)
14	6	25	金												
13	6	26	土												
12	6	27	日												
11	6	28	月												
10	6	29	火												
9	6	30	水												
8	7	1	木												
7	7	18	金												
6	7	19	土												
5	7	20	日												
4	7	21	月												
3	7	22	火												
2	7	23	水												
1	7	8	木												
★	7	9	金												シート提出日(公式練習)

※本チェックシートは、参加者個人の健康状態を記録・把握することを目的としています。
シートに記載された個人情報は、大会主催者が適切に取り扱い、上記の目的のほか参加可否の判断、必要な連絡のためにのみ使用します。ただし、大会関係者から感染又はその疑いがある人が発見された場合には、必要な範囲で保健所、医療機関等に情報を提供することがあります。

※大会参加者の引率者又はチーム責任者は、本チェックシートを管理し、公式練習時（７月９日）に受付に提出してください。

※大会期間中、本シートとは別に、毎日**「健康チェックシート（当日用）」**を提出する必要があります。

出場校用

健康チェックシート（当日用）

資料３－１

令和　　年　　月　　日

１　所属（学校名）

２　引率者氏名・連絡先　　電話　　－　　－

◎当日朝の健康チェック

ア．平熱を超える発熱　　イ．咳、喉の痛みなど風邪症状　　ウ．だるさ、息苦しさ（呼吸器症状）

エ．味覚や嗅覚の異常　　オ．体が重く感じる、疲れやすい（倦怠感）

No.	参加者情報									全てなし	該当なしは「レ」					備考	
	氏名	M1×	M2×	+M4×	W1×	W2×	+W4×	その他	当日朝体温		ア	イ	ウ	エ	オ	特記すべき事項	選手以外の場合、記載
(例)	天竜 太郎							○	36.5	✓							引率者
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	

この健康チェックシートは、全国高等学校選抜ボート大会において、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、大会参加者の健康状態を確認することを目的としています。
健康チェックシートに記載された個人情報は、大会主催者が適切に取り扱い、上記目的のほか、来場可否の判断、必要な連絡のためにのみ利用します。
また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き、本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。
ただし、大会関係者から感染症患者又はその疑いがある方が発見された場合には、必要な範囲で保健所等に提供することがあります。

受領日時　令和　　年　　月　　日　　：

確認	受領者

スタッフ用

健康チェックシート（当日用）

資料３－２

令和　　年　　月　　日

1	所属（学校名等）	
2	担当部署	競漕委員 ・ 審判 ・ 安全監視 ・ 計測 ・ 競技総務 ・ 記録 ・ 放送
		配艇 ・ 水路 ・ PWC（救助） ・ 舟艇 ・ 広報 ・ 医務 ・ 感染症対策
		報道 ・ その他
3	氏名・連絡先	電話　　－　　－

◎当日朝の健康チェック等

	項目	チェック欄
ア	当日朝、平熱を超える発熱があった。	
イ	咳、喉の痛みなど風邪の症状がある。	
ウ	だるさ、息苦しさ（呼吸器症状）がある。	
エ	味覚、嗅覚の異常がある。	
オ	倦怠感（体が重く感じる、疲れやすく感じる）がある。	
カ	新型コロナウイルス感染症陽性とされた人との濃厚接触がある。	
キ	同居家族や身近な知人で感染が疑われる人がいる。	

※各項目に該当しない場合は、チェック欄に「レ」を記入

◎注意事項の確認

	項目	チェック欄
ア	体調が悪い場合は、大会参加を見合わせ、本部又は各部署の委員長に連絡すること。	
イ	大会中に使用するマスクを用意している。	
ウ	感染症対策に関する大会ガイドラインを確認している。	
エ	会場受付での検温で発熱があった場合は、大会運営に従事できないことを承知している。	
オ	大会終了後、2週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかにその旨を主催者に報告する。	

※各項目を確認した場合は、チェック欄に「レ」を記入

この健康チェックリストは、全国高等学校選抜ボート大会において、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、大会関係者（運営スタッフ）の健康状態を確認することを目的としています。
健康チェックリストに記載された個人情報は、大会主催者が適切に取り扱い、上記目的のほか、来場可否の判断、必要な連絡のためにのみ利用します。
また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き、本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。
ただし、大会関係者から感染症患者又はその疑いがある方が発見された場合には、必要な範囲で保健所等に提供することがあります。

受領日時　令和　　年　　月　　日　　：

確認	受領者

第41回全日本中学選手権競漕大会新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン概要

3　大会参加に係る前提条件（ガイドライン　1P）

（1）大会出場団体にあっては、各都道府県または選手所属校・クラブ等において活動が認められていること。

（2）所在する都道府県において緊急事態宣言が大会当日に発出されている団体は大会出場を見合わせていただく。

（3）「感染または感染が疑われる場合の参加判断基準」別表1を参照し、参加が認められる状態にあること。

4　本大会の開催（ガイドライン　2P）

（2）全国の感染状況やスポーツイベントにおけるクラスターの発生状況、開催自治体の要請等により、大会の中止または規模縮小などの適正な対応を行う。

上記に関わらず主催者が感染症対策のため有効であると判断した場合は、参加クルー数・競技種数・レース距離・競技日程の短縮等、大会規模を縮小して開催する。

（3）本大会の開催については、下記の対応を前提として実施する。

①無観客での開催。

②開会式は行わない。7月10日第1レースの前に会場放送による開始式を実施する。

③代表者会議はリモートで行う。（新型コロナウイルス感染状況により変更の可能性あり。）

④表彰式はレース終了後、表彰者を優勝者全員、2・3位2名までとし順次AQUA未来（艇庫）前にておこなう。

⑤大会に関わる全ての者が健康スクリーニング(14日間)を行い、大会に参加する。

5．大会参加者及び大会主催者(運営スタッフ)の遵守事項（ガイドライン　2~4P）

（2）大会参加者

3）大会会場での行動・時間ルール

①健康チェックシート提出受付は、受付場所や選手控え所の混雑（密集）を避けるため、原則、発艇時刻の2 時間30 分前からとする（例／午前10 時発艇レース出場の場合、午前7 時30 分から）。

②①に定めた受付時刻よりも早く会場入りする場合は、テント内での密集または他チームとの接触を避けること。

③ウォーミングアップは、2 時間前から行うことができるものとする

④レース後は速やかにクールダウン等を行い、レース終了後は、賞状等を受け取るクルーを除き、可能な限り早めに会場を後にすること。なお、複数種目の出場団体にあっては、来場した車両内で待機するなどし、時間調整を行うこと。

⑤各チームで大会会場内まで帯同が可能な者は、各チームの監督・コーチとする。

4）マスク着用のルール

マスク着用	1　屋内での活動時全般（トレーニング時を除く） 2　桟橋、配艇場（出艇・帰艇の補助、リギング等） 3　チームミーティングなどの会話時 4　移動時
マスク不要	1　屋外での活動時で、２m以上の間隔が確保できる場合。 2　アップ、クールダウン時 3　トレーニング時 4　乗艇時（レース時）※ただし、舵手はマスク着用する。 5　水分補給時、食事中

※